

「虫さんにも美味しいSDGsを食べてもらおう！ Soramame, Daikon, Goya, Satsumaimo大作戦！」

土谷 和 (5才)

No123 東京都杉並区 [カテゴリー] 植物 [観察場所] 自分で育てているトマトの植木鉢です。

[感想] これまでSDGsについて知ってはいたものの親子で共に話し合う機会がなかったのですが、今回のコンテストをきっかけに親子でSDGsについて具体的に話し合うことが出来ました。元々息子は粘土遊びが好きなので、応募した時から到着を心待ちにしていました。そしてこの粘土が食べ物の残りできていて微生物が食べて土に帰ることを知った事から、人が食べるものも美味しいって事を知ってもらいたいからこの粘土で食べ物を作ろうね、と目を輝かせていました。粘土が到着したら早速食べ物カードを持ち出してどの食べ物を作るか話し合い、SDGsの頭文字を取った野菜を作ることにしました。

(Soramame, Daikon, Goya, Satsumaimoの4種類です。) そこからはカードと睨めっこをして粘土を混ぜ色を作り、大好きな粘土タイム。爪楊枝で穴を開けるなど工夫しながら虫に食べてもらえる美味しい野菜を作り上げました。出来上がった時の嬉しそうな顔と、早く並べて食べてもらおう、と弾む声を聞けただけで親としては大満足です。その後観察場所も色々検討したのですが、最終的に毎日きちんと見れる家で育てているトマトのプランターにしよう、となりました。この粘土の素晴らしいところは作って終わりな訳ではなくその後の観察もセットなところで、その事によりより長い間SDGsについて考える機会がありました。作り始めの時のSDGsの親子間の話題はフードロスについてだったのですが、長期間の観察の中で子どもが「なかなか粘土が無くならないね」と言ったことがきっかけで、SDGsの話題はリサイクルやゴミ減量化についてへと変化しました。土に還るものであってもかなりの長い期間を経て還るので、土に還ることのないゴミは減らさないといけないよね、と自然とゴミの減量化へと意識が向いたのです。これは親も予想しなかった嬉しい誤算でした。子どもは今回の取り組みをきっかけにSDGsに興味が出たようで、国立博物館の特別展示を観に行きたい（海という展示で、SDGsについての展示もあるという情報があった）と初めて博物館に行ったり、図書館のSDGsコーナーで立ち止まったり、と自分の生きる地球や今後に興味が出たようです。当初は遊びの中でSDGsを学べるいい機会だな、という軽い気持ちで応募させていただいたのですが、終わってみればSDGsについて身近に且つ深く考えることができるとても良い機会でした。とても良い体験をさせていただけたことに深く感謝をいたします、ありがとうございました。

[その他コメント] 今回このコンテストに参加できて親子共々とても楽しめましたし有意義な時間を過ごせました。粘土の量が半分になってしまったとの事でしたがそれでも十分に楽しめましたし、より多くの方が楽しめるようにとの運営様の機転が素晴らしいなと思いました。また随時ホームページをチェックさせていただきます。素晴らしい機会をありがとうございました。

